

事例2

<事例概要>

- ・70歳代の患者。左上下肺静脈共通幹あり。BMI 22.1 kg/m<sup>2</sup>。
- ・約1年の病歴を有する発作性心房細動に対し、クライオバルーンカテーテルを使用しアブレーションを実施。
- ・左上肺静脈へのカテーテル挿入時にカテーテルが左下肺静脈に進むため、バルーンカテーテルからマッピングカテーテルの出し入れを実施した。バルーン拡張後、透視と心臓超音波検査で心嚢液貯留を認めた。心嚢穿刺を実施したが心停止となり、経皮的心肺補助（PCPS）、開胸止血術を実施したが、治療11時間後に死亡した。
- ・死因は、上行大動脈裂創、左心耳穿孔による心タンポナーデ。解剖有、死亡時画像診断（Ai）無。